

「幸せは自分が決める」 写真家・中倉さん 長崎短大で講演

佐世保市椎木町の長崎短期大で4日、地域講座が開かれ、市内の写真家、中倉壯志朗さん(55)が県内の教会で撮った写真を使い、「便利で裕福な生活だけが幸せではない。幸せは自分自身が決める」と周囲で暮らす信者らとの交流で感じた思いを語った。

中倉さんは広告写真を手掛けるなど、東京で活躍していたが40歳を過ぎて故郷の佐世保に戻った。そこで「子どものころ気付かなかったキリスト教弾圧の歴史が、今どのように見えるだろう」と教会に足を運んだ。数カ月間通い、信者との関係を築いた上で撮影を始めたという。

中倉さんは弾圧の歴史に触れ、「迫害から逃れるように西にたどり着いた信者が多かった」と説明。黒島教会(黒島町)で撮った写真を見せ「祖先が造った教会の前で、昔の貧しい生活を知らない子どもが遊んでいる。人間は普遍的だと感じた」などと紹介した。

迫害の歴史や信者との交流語る

講座は、本年度から始まった地域を支える人材育成を目的とした事業の一環。食物科の学生約70人が参加した。韓国からの留学生で1年のチェ・ドンファンさん(26)は「これまで深く知らなかった迫害の歴史などを知ることができてよかった」と話した。

(戸羽信介)



「幸せは便利で豊かな生活だけではない」と語り掛ける中倉さん =佐世保市、長崎短大